

## 食後のデートにも最高のロケーション

### 十 ぶーみんヴィノム 新川バル

☎03-3206-5977

2012年3月オープン

中央区新川 2-21-9 第二田村ビル1F

39席

11時30分～13時45分(祝日はランチ休)、17時30分～22時 L.O.

日休

この起こりは、1969年生まれの元旅行会社社員、安生浩が、父親の病気をきっかけに実家の酒屋の再建を決意し、2005年2月、ワインの販路を作るため、銀座1丁目と新富町の境に出店した、ワイン・レストラン『ボンデュガール』。この店の、ワインの瓶に直接値段を書く、気取らぬディスプレイや、グラスになみなみと注ぐスタイルがたちまち人気となり、安生は、(有)リヨンブルーアンテルナショナルを興し、07年に2号店、10年に3号店と、新富町の一帯に『ボンデュガール』を集中出店。一方、05年には、隣りの八丁堀で、老舗酒屋の「宮田屋」が、店内をそのまま立ち吞みにしたバル『maru』をオープン。元々江戸時代には、この界限は、上方で作られた日本酒が江戸に運ばれて消費された「下り酒」の集積地で、酒屋が多かった土地柄。こうして、新富町一帯のワインバル聖地化が始まった。

この流れにうまく乗ったのが、ハンバーガー・チェーンのベッカーズの出身で、2010年に神田司町にワインバー『ばんざい手豆や』を出店した白根智彦率いる(株)シェアハピネスだ。同社は11年、新富町に豚肉料理を

ウリにしたフレンチ・バル『ぶーみんヴィノム』を出店。12年には、新富町の隣りの新川に、神田司町の最初の店を畳んで、『ぶーみんヴィノム・新川バル』として移転オープンさせている。

この店も、ウリは豚肉料理。味はともかく、値段は安い。ワインは3000～4000円が中心。2人でワインを1本飲んでたっぷり食べて、勘定は1万円ちょっつきり。

新川は、運河と9つの橋で囲まれた、昔は霊岸島と呼ばれた完全な「島」。東京駅八重洲口から、八重洲通りをまっすぐ進むと、隅田川を越えて月島の高層マンション街に渡る、隅田川随一の眺めの中央大橋がかかっているが、この店のロケーションは、その橋のすぐ手前を右に曲がったところ。周囲はしもたや風のビルで、佇まいのかわつこさは東京随一と言える。食後は、ライトアップされた中央大橋を渡るもよし、あるいは、周辺の運河にかかったそれぞれに特徴のある橋を巡るもよし。デートコースとしては抜群の環境だ。



店内は、濃茶の木を多用し、落ち着いた雰囲気。壁一面のワイン棚も効いている。メニューには、今どき珍しい、具が何層にも乗った分厚い「シカゴピザ」も。